

遠野物語へようこそ

講師 立正大学教授 三浦佑之

ちょうど 100 年前、遠野出身の青年・佐々木喜善が語る伝承を柳田国男が筆録することで、民俗学の記念碑として知られる『遠野物語』は成立した。そこは、前近代と近代とはさまに置かれた山深い里の不思議に満ちている。民間伝承の楽しさと魅力を味わいたい。 <各回カリキュラムは裏面へ>



遠野の遠景

- 日時：7/2・7/9・7/16（金） 全3回
15:00~16:30
- 受講料：会員 9,450円 一般 11,340円
- 入会金：5,250円（既会員・70歳以上は不要）

NHK 文化センター青山教室

〒107-8601 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館4F
銀座線・半蔵門線・大江戸線 青山一丁目下車
<http://www.nhk-cul.co.jp/school/aoyama/>

03-3475-1151

好奇心の、その先へ
NHKカルチャー

<各回カリキュラム>

第1回 『遠野物語』の成立と村の始まり（7月2日）

『遠野物語』はどのようにして成立し、どのような意味をもつのか。村落において伝承を語り継ぐとはどういうことか。村の始まりや神の鎮座を語る伝承を読みながら、村落で語られる伝承について考えてみたい。

第2回 山への恐れと里の暮らし（7月9日）

山に囲まれて暮らす人びとは、山の恵みを受けるとともに山への恐れに脅かされながら暮らしている。人びとのまわりには山男・山女や河童が棲み、しばしば神隠しも生じる。山や里や家で語られる話に注目してみたい。

第3回 人と動物との関係（7月16日）

山や野にはクマ、オオカミ、サル、キツネが棲み、人びととさまざまなかたちで接触する。か弱い少女や少年が小鳥になった話や、ウマと少女の恋物語が語られたりもする。人と動物たちとの距離やつながりを読んでみよう。

（注）とり上げる伝承については資料を配付しますが、『遠野物語』を準備していただければよりわかりやすいでしょう。角川ソフィア文庫や岩波文庫に収められています。参考書としては、三浦佑之・赤坂憲雄『遠野物語へようこそ』（ちくまブックス）などが出ています。

獅子踊り



河童淵

